

JAMの主張

TANA会開き 信頼関係築こう 田中ひさや参議院議員の誕生をめざし

機関紙 J A M 2018 年 5 月 25 日発行 第 232 号

私からの指示ではございません——。

問題発生を受けて会見に臨んだ大学運動部前監督の発言が、世間を大きく騒がせた。組織としての対応姿勢など、その他の点も多くの非難を浴びているが、誤解した選手に問題があると説明したこの前監督は、選手と話をする機会はめったになかったと伝えられている。

サッカー日本代表の監督も、W杯本大会直前のタイミングに解任された。選手との信頼関係が理由とされている。

J A Mはいま、来年夏の参議院選挙に向けて、田中ひさやを擁した「政策実現活動 Project Q」を展開している。とりわけ、この5月は、推進計画に定めた「教育期間」の真っ只中にある。全地方のすべての単組で「TANA会」と称する研修会・集会などによる説明、対話の活動展開により、取り組みの趣旨・必要性についての十分な理解を組合員に広げようというものだ。

一人ひとりの組合員とのフェイス to フェイスの対話を実践することにより、組織リーダーとメンバーのコミュニケーションを積み重ね、信頼関係を構築することにほかならない。

国会の「J A Mの議席」奪還を期す今回の取り組みは、「J A Mの方針が組合員一人ひとりに伝わっていない」とまとめられた前回 2016 年活動の総括を原点として、活動計画が組み立てられている。しかし、年明けからこれまでの間、1500 回以上の TANA 会が開かれているが、出席者は約 34,000 人。取り組みが 25 万を越す結果を必要とすることからすると、途中経過とはいえ、絶対的な広がり不足しているのが現状だ。

TANA 会開催の成否こそが、最終的な取り組みの結果に確実に直結する。徹底した TANA 会の開催により、J A Mと単組、単組執行部と組合員の十分なコミュニケーションにより 35 万人の信頼関係を構築し、これを原動力に、田中ひさや参議院議員の誕生を勝ち取ろう。

副書記長 椎木盛夫